

”超”を目指す軸受技術研究会（第3種，主査 森 淳暢）：

本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での”超”を議論し，情報を交換する場として運営されている。

本年度は，委員数 32 名，平均出席者数は 20 名程度で，関西大学を開催場所とし，3回の研究会を開催した。研究会での講演タイトルは以下のとおりである。

第 13 回研究会（2004 年 8 月 7 日 於：関西大学）①私が経験した“超”気体軸受実用化研究の例—ヘリウム／空気液化タービンから HDD スライダまで—（滋賀県立大 田中勝之），②フェムト秒レーザーによる周期構造の形成と表面機能（NEC マシナリー 沢田博司），③転がり—滑り接触面の耐疲労強度に及ぼす微細周期構造の影響（関西大 古野 武，多川則男，森 淳暢）。

第 14 回研究会（2004 年 11 月 20 日 於：関西大学）①HDD 用多孔質動圧軸受のジャーナル／スラスト部の連成解析（NTN 古林卓嗣，大阪電通大 矢部 寛），②中性子散乱法によるトライボ現象の基礎的観察—31st Leeds-Lyon Symp. 報告を兼ねて（龍谷大 平山朋子，井上和子，原研 海老澤 徹，京大 田崎誠司，日野正裕，福永正晴，伊藤恵司，高エネ研 鳥飼直也），③超高面圧端面軸受の焼付き防止策（関西大 小寺啓之，多川則男，森 淳暢）。

第 15 回研究会（2005 年 1 月 22 日 於：関西大学）①多孔質静圧気体軸受に関する研究（東京理科大 宮武正明，吉本成香），②スパイラル溝付きジャーナル軸受の溝諸元の最適化に関する一考察（大阪電通大 矢部 寛，左海真吾，龍谷大 山口奈緒美，平山朋子，スピンドルデバイス研究所 菱田典明），③小型機器用すべり軸受へのMoS₂ショット処理の適用とその効果（スピンドルデバイス研究所 菱田典明，龍谷大 竹内健司，平山朋子）。

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている。次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3～4回の研究会の開催を予定している。

URL：<http://web.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>